

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった |
| ④書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・最も正答率が高かった設問: 1三(2)イ
送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問
- ・最も正答率が低かった設問: 1二
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問
- ・最も無解答率が高かった設問: 3二
目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問

分析

1 傾向

全体的に、全国と比べて正答率が下回る結果となっている。特に無解答率が高かったのは、記述式の問題であった。

2 成果

正答率が最も高かった設問は、学習指導要領における『言葉の特徴や使い方に関する事項』の領域であった。漢字の送り仮名は間違えやすいものもあるので、何度も繰り返し日常生活の中で活用していくことを大事にしていく。次に正答率が高かったのは、学習指導要領における『我が国の言語文化に関する事項』の領域であった。図や資料を見て、何が書かれているかを読み取る力が上がっているのは、指導事項を意識して言語活動を設定し学習をすすめてきた成果が少しずつ表れてきたと考えられる。

3 課題

正答率が最も低かった設問は、学習指導要領における『我が国の言語文化に関する事項』の領域であった。資料を見ながら条件付きで文章を考えるということに「どう書いていいかわからない」など苦手意識をもつ児童が多いのではないかと考えられる。

4 授業での重点的な取組み

作文などで、文章を書く機会はあるが、条件を満たしながら文章を書く機会が十分ではないと考えられる。何を書くかを明確にし、構成を考えるなどして、授業でも意図的に取り入れていく。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|---------------|
| ① 数と計算 | やや課題が残る結果であった |
| ② 図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④ データの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・最も正答率が高く、無解答率が低かった設問: 1(1)
伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる設問

・最も正答率が低い設問: 2(3)(4)
正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問
高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問

・最も無解答率が高かった設問: 4(3)
示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる設問

分析

1 傾向

全国と比べて正答率の差がない結果となっている。

2 成果

正答率が最も高かったのは、学習指導要領における『変化と関係』の領域・内容であった。普段の授業から、単に算数を受け身で教わるのではなく、問題を自立的、協働的に解決する過程を大事にしてきたことにつながると考えられる。

3 課題

正答率が低く、全国的にも正答率が低かったのは、学習指導要領における図形の領域であった。

4 授業での重点的な取り組み

今後、授業の中で、図形の公式についての理解を深められるよう丁寧に取り組んでいく。また、それらを理解していても活用できるようにすることに課題があると考えられる。そのため、多角的に図形を読み解く力をつけていけるよう授業の中で、問題解決学習の中で、様々な考えを共有するなどしていくことが大切である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

今年度は、国語の平均正答率がわずかに減少し、算数の平均正答率が上昇する結果となった。昨年度より国語科では、つきたい力を明確にし、言語活動を設定する授業改善を進めており、今後も引き続き、国語に重点をおいて研究を進めていきたい。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度より学力高位層が減少し、低位層が増加するなど、課題が残る結果となった。しかし、エンパワー層については減少傾向を続けており、今年度については全国平均を下回ることができ、学力の底上げにつながっている。今後も、個に応じた学びの充実を図っていく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

①レインボータイムの実施

国語への興味関心を図るために、言葉の基礎プリントを活用したレインボータイムを実施している。点つなぎや漢字パズルなど楽しみながら取り組める問題を高学年と低学年の異学年交流をしながら進めることで児童の興味関心を引き出している。

②計算トライアルの活用

四則計算の技能を定着させるために、計算トライアル(タブレット)をいつでも活用できる環境を整えている。学年や個々の計算力に応じて計算シートが選択できるため、計算力の向上につなげることができる。

③MIMの実施

今年度も1年生でMIMの取り組みを続けている。また、1年生だけでなく全学年がいつでも活用できるようにタブレットだけで実施できる環境を整えている。

2 言語活動の充実

①国語科での取り組み

『つきたい力を意識した言語活動の充実』をテーマに国語の授業づくりの研究を進めている。単元計画、全文シート、並行読書などを活用しながら言語活動を設定し、児童の「読む力」を高めていけるように取り組んでいる。

3 授業方法・内容の工夫と改善

①ICTの活用

ICT機器を積極的に活用しながら、児童の主体的な学びを意識している。一人一台タブレットを授業で活用するために研修会を行い、日常的に使える方法を校内で共有している。

②個に応じた学びの充実

個に応じた適切な指導・支援のあり方と教室環境について、支援教育アドバイザーから専門的な指導助言をもらい、校内で共通理解を図っている。

③図書活用率UPに向けて

調べ学習や並行読書など、図書資料を活用した授業づくりを進めている。ブックラックで学年廊下に本を並べ、本に親しむ、触れる機会を増やしている。